

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

大阪市立加美北小学校 教諭 神前 竜太

1. 単元名 「推しの工場」

2. 単元の目標

- ・加美北小学校周辺にある工場を他者に発信するために必要な情報を、インターネットやパンフレットなどの資料から読み取ったり、見学やインタビューから見たり聞いたりして、自分の考えをまとめる材料として活用することができる。 (知識・技能)
- ・発信したい工場の技術や製品について、調べてきたことをもとにまとめ、他者に伝わるよう適切に表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・工場に関心をもち、工場では何が作られているのか調べたりまとめたりするとともに、これからの工場の在り方について考えることができる。 (学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

(1) 教材観

加美地区は、平野区の中で最も工場の多い場所である。その中にある加美北地域も、多くの工場が広がり、児童たちの住んでいる場所や小学校の周辺にも工場が並んでいる。ほとんどの児童の家から学校への通学路に工場があるといえる。また、会社創設50周年の記念として学校に記念品を寄贈してくださる工場や学校創立時に正門前の校章を制作した工場など、実際に学校とつながっている工場もある。

加美地区に工場が増えるまでは江戸時代から続く綿業が盛んであったが、昭和時代前期には化学繊維の普及により廃れていった。そして戦後の都市開発により、周辺に平野川や国道25号線、関西本線があることから運送に便利な立地である加美地区に金属・機械工業の工場や従業員のための住宅が建設され現在に至っている。

しかし、ほとんどの工場で何を作っているのか、作られたものがどこに運ばれて何に使われているのかということはあまり知られていない。また、一部の児童のイメージとして、工場で働いている人は怖いということや、機械の操作は危険が伴うということなど、工場に対して消極的な考えも聞こえる。したがって、本教材は自分たちの町にある工場を知るとともに、そこで働く人々や、製品を作り上げる技術のすばらしさにも気づくことができる教材であると考えられる。そして、「推しの工場」を他者にわかりやすく伝えることについても考えていくことができる教材である。

(2) 児童観

本学年の児童はこれまでに国語科「地域のみりよくを伝えよう」や「和の文化を発信しよう」を学習し、自分たちが住む地域にあるお店や神社を模造紙に書いて紹介したり、和菓子

や着物などをポスターで紹介したりする活動を行ってきた。また、社会科「私たちの生活と工業生産」では、大阪府は阪神工業地帯に入っていることを学んできた。その中で、加美北地域にも工場がたくさんあるということを児童が発言することが多くあった。この地域に工場が多いということは、児童たちの間では当たり前であると同時に地域の特色であるようだ。

しかし、実際にどんな工場があるのか質問してみると、何が作られているのか、どんな技術があるのかなどを詳しく知っていて答えられる児童はほとんどいなかった。家族が工場働いており、仕事内容を知っている児童もいるが、他の工場については知らない様子である。そこで、第5学年では、地域にあるたくさんの工場をあらためて調べ、「推しの工場」を発信する活動を行う。国語科や総合的な学習の時間でインタビューをする機会があり、相手に応じて言葉遣いを考えたり、聞きたい内容をまとめてインタビューに臨んだりしてきた。その経験や知識を生かし、知りたいことについてインタビューするとともに工場働く人の思いを聞くことによって、自分たちの住む地域には素晴らしい工場がたくさんあることを他者に発信しようと思えることができると思われる。

(3) 指導観

本単元では、児童がフィールドワークやインタビューを通して、加美北地域にある工場の特色や世界につながる技術を知り発信することで、自分の意見を持ち相手に伝えるという力を育成したい。そのため、「推しの工場を紹介しよう」というテーマに沿って、探究的な活動に取り組んでいく。また、情報発信に向けて友達や工場働く人たちと交流する場面を設定し、他者の意見を聞くことにより考えが広がったり、深まったりして、身近な存在である工場の凄さを実感できるようにする。地域とのつながりを踏まえた活動とすることで、児童たち自身が地域を魅力的にアピールできる存在だと自覚できるようにしていきたい。

第一次では、校区内の工場を探すフィールドワークを行い、たくさんの工場があることに改めて注目する。そこで、探索中に気になった工場では何が作られているのか調べたり考えたりすることで、実際に見学をしたり働く人の話を聞いたりしたいと思わせたい。

第二次では、「推しの工場」をテーマにして、周りにある工場を魅力的に伝えるためにどうすればよいのか、考えを深める。最初に、工場見学に行き実際に製品を作っている様子を見学して、働く人がどんな思いで仕事をしているのかをインタビューを通して聞く。可能であれば、タブレットを用いて、機械や工場内の写真を撮影することができるようにする。また、万博国際交流でパプアニューギニアの小学校を交流しているので、工場できた製品が外国に送られることがあるのかということにも関心を持ち調べることができるようにしたい。

訪問終了後、ポスター制作のために構成を考える。「推しの工場」のテーマを再確認し、他者が興味をもつポスターを作ることができるようにアイデアを話し合う。読み手が引き込まれるような写真や見出しの付け方を考えることができるようにしたい。そのために、グループで協力してポスターで伝えたいことを考えていく。そして、他のグループのアイデアを参考に、自分たちの「推しの工場」についてポスターを作成し、学級内で見せ合う。

第三次では、加美北地域にある工場がこれからどうなるのかを考え、これからの向上の在り方について考えていこうとする態度を養う。そこで、工場で作られるものがなくてはならない製品になるということを伝えたいと考えられるようにしたい。そして、作成したポスターを構内に掲示したり、工場マップを作成して校外に発信することができるように働きかけたりすることで、自分たちが地域の魅力を発信できる存在であることを自覚できるようにする。そして、住んでいる地域に誇りをもつことができるようにしたい。

(4) ESDとの関連

- ・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

連携性…一つの工場だけで完結するのではなく、材料となるものを作る工場があることとやできた製品が他の工場に運ばれて別の製品ができていることなど、様々なつながりがあるということ。

相互性…工業地帯の発展には、交通面・技術面・社会面のそれぞれが関連し合うことが必要であるということ。

責任性…現在の工業発展だけでなく、これからもものづくりの活性化を図るために、一つひとつの工場に考えや技術があるということ。

- ・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

システムズシンキング

工業生産が盛んな地域は、様々な環境や背景がつながり発展してきたことを理解している。

コミュニケーション力

工場で働く人々の思いを聞き、地域で住む一員として自分たちが魅力を発信するために、どのように表現することができるか考える。

- ・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

これまで続いてきた工業生産を他の地域や後世にも伝えたいという思いをもつ。

幸福感を大切にす

自分たちの住む地域で作られているものがたくさんの工場や製品とつながりがあり、みんなの生活を支えているということに気づき、大切に思う。

- ・関連する SDGs

【目標 8：働きがいも経済成長も】

ポスター作りや他の地域との交流を通して、児童から広がる工場の魅力の発信力を磨く。

【目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう】

工場で働く人の話を聞く中から、製品を作る上で資源を大切にしている反面、廃材の再利用について課題を感じているということを知る。

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>1 工場の特徴について理解するとともに、地域を支える存在であることを理解している。</p> <p>2 他教科やこれまでの総合的な学習で学んだことを活用して、探究的な活動に取り組んでいる。</p> <p>3 自分たちの知りたいことを、インターネット、書籍資料、インタビューを通して調べている。</p>	<p>1 工場の特徴や課題を資料やインタビューから情報収集し、整理、分析している。</p> <p>2 自分たちの身近にある工場はどのような役割を果たしているのか、整理した情報をもとに考えている。</p> <p>3 自分が発信したい工場の製品や技術について、他者に伝えるようにまとめて表現している。</p>	<p>1 「自分たちの住む地域にある工場では何が作られているのか」について、進んで調べようとしている。</p> <p>2 友達の意見や工場の人を考えを生かしながら、他者に伝えるように発信しようとしている。</p> <p>3 工場について知ることで、これからの工場の在り方について考えていこうとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全19時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>1 校区内のフィールドワーク</p> <p>2 をする。</p> <p>3 詳しく調べたい工場を考える。</p>	<p>・機械や金属の他の工場にも着目できるようにする。</p>	<p>△ウ1</p> <p>△ア2</p>
2	<p>4 工場でインタビューすることを整理する。</p> <p>5, 6 工場見学に行く。</p> <p>7 見学してわかったことをまとめ、ポスターに書く内容を考える。</p> <p>8 ポスターの構成を発表し、意見交流を行う。</p> <p>9 意見交流を振り返り、ポスターの構成を再考する。</p> <p>10 ポスターを作成し、学級で</p> <p>11 発表する。</p>	<p>・ホームページや看板等で知ることができる情報は先に収集して、そこから詳しく知りたいことやわからないことを中心にインタビューできるよう声かけをする。</p> <p>・その工場の何を一番推したいのかということを考えられるようにする。</p> <p>・他のグループの構成から参考になるところを探したり、より良くするための質問を考えたりできるようにする。</p> <p>・工場の製品や技術の凄さをキャッチコピーで表現できるように、類語辞典やインターネットを使いながら考えられるようにする。</p> <p>・見た人が立ち止まって見るような写真やレイアウトを考えられるように声かけをする。</p>	<p>ア1</p> <p>ア3</p> <p>イ1</p> <p>イ2</p> <p>ウ2</p> <p>イ3</p>

3	<p>12 加美北の工場はこれからどうなっていくのか考え、自分たちにできることを提案する。</p> <p>13 保護者や地域の方も見られるように、加美北工場マップを作成し、渡す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの際、工場には課題もあることも知ったことを思い出させる。 ・ポスターを学級以外で紹介したり、学校の中以外でも情報を発信したりする方法はないか提案する。 ・いろいろな人が見やすい内容にできるように、相手意識をもたせるようにする。 	<p>ア1 ウ3</p> <p>イ3</p>
---	---	--	----------------------------